

平成26年度南田中小学校学校経営計画

平成26年4月1日
校長 梶谷雅弘

1 目指す学校

- (1) 環境美化に努め、児童が安心して楽しく学ぶことができる学校
- (2) 基礎的・基本的な学力をしっかりと定着させ、自己学習力の育成を図る学校
- (3) 授業力の向上に努め、質の高い教師集団をめざす学校
- (4) 保護者・地域の人々に愛され共に歩む学校

2 中期的目標と方策

- (1) 共感的な児童理解に基づいた生活指導体制を確立する。
 - ① 体罰根絶を全教職員で共有した上、授業規律の確立を目指し、全校体制で指導にあたる。また、児童に関する情報を全教職員が共有し組織的に指導に当たる。
 - ② 安心・安全を支える環境整備に努める。特に、食物アレルギーの対応が必要な児童については、全教職員で共通理解をし、全校体制で安全確保に努めていく。
 - ③ 保護者や地域社会・学校応援団及び関係諸機関との連携を図る。
- (2) 基礎的・基本的な学力の定着を図り、自己学習力を育成する。
 - ① 体育館との合築による区立南田中図書館を有する恵まれた教育環境を最大限活用し、南田中図書館と連携し活字に親しむ学校づくりを目指す。積極的に図書館の資料を活用し基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させ、知識・技能を実際に活用する力を育成する。この活用する力を基礎として、実際に課題を探究する活動を行い自ら学び自ら考える力を高める。
 - ② 実物投影機等の ICT を効果的に活用し、探究的な活動を積極的に推進して、児童の知的好奇心を刺激し、学ぶ意欲を高めたり、知識・技能を体験的に理解させたりして、自ら学び自ら考える力を高める。
 - ③ 各教科を横断して指導に当たり、「体験から感じ取ったことを表現する力、情報を獲得し思考し表現する力、知識・技能を実生活で活用する力、構想を立て実践し評価・改善する力」等の育成に努めていく。
 - ④ 幼・保・小・中との連携を一層進め、入学前の児童の情報を収集し、新入生の指導に役立てると共に、夢と希望をもって、中学校へ進学し児童が自分の力を存分に発揮できるようにする。
- (3) 教師の命は授業である。この授業力向上のため、互いに授業を見合い良さを吸収しあい学校の授業力向上を図る。
 - ① ベテラン教師を講師とした若手教員の授業力向上を目指した研修会を実施する。
 - ② 校内研究で、各教員が1年に1回以上研究授業に挑戦し、謙虚に学び合う。
- (4) 学校関係者評価を実施し、保護者・地域に結果を公表する。
 - ① 保護者・地域との双方向の交流を一層図り、家庭や地域とともに教育にあたるために、学校評議員会に評価委員会を設置し、学校関係者評価を実施する。
 - ② 地域の教育力をさらに発掘し、学校の教育活動の推進のために協力をいただく。また、PTAや地域の行事等に教職員が積極的に参加するとともに、児童の参加を呼びかけていく。「南田中小の児童は、地域で育てる。」を合い言葉に、本校の児童を見守り育てていただくよう保護者や地域の皆さんに依頼・発信をしていく。また、地域の行事には、教職員も積極的に参加をする。
- (5) 開設五年目を迎える特別支援学級と各学級を融合させた教育活動を推進し、保護者・地域の負託に応える。

3 平成26年度の達成目標と方策

- (1) 共感的な児童理解に基づいた生活指導体制を確立する。
 - ① 体罰根絶のための指導を全教職員が共有し、日々の指導に当たる。「南田中小学校『学習・生活指導の全体計画』」を活用し、6年間を見通した学年の発達段階に応じた「学習や生活に関する躰け」の指導に当たる。また、基本的な生活習慣を徹底的に身に付けさせるとともに、自他の生命を尊重する心や規範意識の育成に努める。
 - ② 食物アレルギー対応の研修会を定期的に行い、全教職員が対応できるようにし、事故防止に努める。
 - ③ 場に応じた言葉遣いや相手を尊重した言葉遣いができるようにするとともに「返事・あいさつ・あとしまつ・ありがとう」を徹底させ正しい人権感覚を身に付けさせる。
 - ④ いじめも含めた様々な問題の早期発見・早期解決と問題の予防・解決を図るため、毎週1回木曜日の夕会で生活指導関係の打ち合わせを行う。その会で、報告・連絡・相談・記録を徹底して行うとともに関係機関との行動連携を図る。

- ⑤ 「みなみん学級」と各学級との交流学习を進め、一人一人の違いを認め合い尊重しあえる思いやりにあふれた心豊かな児童を育てる。
- ⑥ 個人情報保護の規定について、全教職員が十分理解をし、日々の教育活動に当たる。

(2) 基礎的・基本的な学力の定着を図り、自己学習力を育成する。

- ① 充実した指導をめざし、年間指導計画や週単位の学習指導計画の活用を通して PDCA 《PLAN (計画) DO (実行) CHECK・(評価) ACTION (改善)》のサイクルを励行する。
C4th を利用し週の指導計画を作成する。単元名の他に、1 単位時間の目標、導入・展開・まとめの要点、評価、反省と改善、時数等を記入する。
- ② 各教科で実物投影機等の ICT を活用したり、体験活動を取り入れたりして一人一人の児童に確かな学力を身に付けさせる。
- ③ 区立南田中図書館と連携し様々な支援を得ながら、並行読書を進んで取り入れる。また、最新資料や本を手元に置き学習ができるようにし、活字に親しむせ学校づくりを推進し、児童の学習意欲向上・課題解決能力の育成に努め、読む力や自分の考えを発表する力を育てる。
また、区立南田中図書館の展示コーナーに児童が作成した本の紹介等の作品を展示してもらったり、各教科で使用する資料を準備して頂いたりして、これまでの研究成果を継続・発展できるように日々の授業に当たる。
さらに、読書月間等を活用して、学校図書館支援員や読み聞かせボランティアと連携し、児童の読書量を増やし読書の質を高めていく。
校内研究と小中一貫教育研究グループの研究を関連づけ、国語科に関しても中学校との関連を踏まえ、国語科での図書館の活用について引き続き研究をしていく。その中で、学年発達に応じた授業のあり方を追究し9年間を見通した授業改善に努め、言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力等の育成に努める。
- ④ 算数においては少人数指導を基盤に、きめ細かい指導を展開する。
- ⑤ 幼・保・小・中の連携を進める、とりわけ南が丘中学校と南が丘小学校との小中一貫研究グループとして研究を進め、夢と希望をもって進学し、力を発揮できるよう児童の指導に当たる。
- ⑥ 学校地域や関係機関の方々と連携し、学区域巡りや地域安全マップ作成やシューズバンクプロジェクト等の活動を推進する。
- ⑦ 新体力テスト結果を基に一人一人の体力向上のための目当てをもたせ実践させる。年間指導計画に基づき健康朝会を開催し、全校体制で食育の指導に当たる。
- ⑧ 補充・発展的な学習を計画的に実践し、長期休業中に補充学習教室を開催する。

(3) 授業力の向上に努め、質の高い教師集団をめざす。

- ① 言語能力向上推進校として培った指導力を、今後も継続できるよう南田中図書館との連携を推進し活字に親しむ学校づくりに努める。
- ② 小中一貫教育研究グループの研究組織の中で、「説明文や物語文における国語科の授業改善に努め、単元を貫く言語活動を取り入れた授業を展開し、授業力を向上させ、児童の思考力、判断力、表現力等の育成に努める。
- ③ みなみん学級の児童や担任との日々の交流を通して、特別支援教育について児童や教員の理解を深め日々の指導に生かしていく。
- ④ ベテラン教師を講師とした若手教員の授業力向上を目指した研修会を月1回以上開催する。
- ⑤ 校内研究で、全教員が1年に1回以上研究授業に挑戦し、謙虚に学び合う。
- ⑥ 児童の学級・学年・学校への所属満足度を高めるために、全教職員で多面的・組織的にきめ細かな児童理解に努め、一人一人のよさを伸ばす。
- ⑦ 事務職員・栄養士・給食調理員・用務主事の総力を結集して質の高い教師集団を支える。必要に応じて学校行事の支援を行う。
 - ・事務職員は、長期的展望を持ち、渉外、施設、経理、庶務を担当し計画的に遂行し、教育活動を支える。
 - ・栄養士は、献立作成、諸報告、食育指導、その他給食関係を担当し教育活動を支える。
 - ・給食調理員は、安全でおいしい給食を作り、児童の食育指導も必要に応じて担当し教育活動を支える。
 - ・用務主事は、校地内、校舎内の環境整備の維持管理、施設設備の修繕・補修、ゴミの収集、来客の接待等を担当し、教育活動を支える。

(4) 学校関係者評価を実施し、学校改善に生かすとともに保護者・地域に結果を公表する。

- ① 保護者・地域との双方向の交流を一層図り、家庭や地域とともに教育にあたるために、2月までに学校関係者評価を実施する。2月下旬に学校評価報告書を区教委へ提出するとともに、その結果を生かし27年度の学校経営計画を作成したり教育課程の編成をしたりする。また、その結果を保護者・地域に公表する。
- ② 「親友の会」の活動を充実させ、学校と父親との連携をさらに強固なものにする。